

市民球場跡地利用計画に 市民の声を!!

折鶴展示施設を中心とした、市の跡地利用計画に“待った”をかけましょう。

広島県の市民が「力」を合わせて作り上げた51年の歴史を持つ広島市民球場。この「戦後復興のシンボル」とも言うべき建物が、生き残る道を十分論議されることなく解体されようとしています。広島市は「日本を代表する専門家が選んだ素晴らしい案」としていますが、4年近くの長い時間を費やしたにもかかわらず、具体的な計画は、球場のほとんどを取り壊し、折鶴施設建設とライトスタンドの一部保存することのみ。それらに30億円以上の税金が投入されようとしています。さらに広島市が予定する劇場やレストハウス、そして商工会議所の移設などを加えると約100億円の税金が費やされ、その後も莫大な維持費を市民が負担させられるおそれがあります。またこの計画は市民球場のにぎわいを完全に消し去るもので、都心の地盤沈下はますます顕著となるでしょう。



広島市の市民球場跡地利用計画

そもそも現球場跡地利用について議論は尽くされたのでしょうか?

跡地利用計画は一部の財界や外部有識者の意見のみで、市民の声を十分に反映したものとはいえません。また未だに議論の経過や市の計画そのものを知らない市民が多いのも大きな問題です。そもそも広島市民球場がどの程度老朽化しているか、市は実態調査をまったく行っていません。特に耐震性に関しては、その調査に数千万円の費用がかかることを理由に調査を行わず、公にしている参考の耐震改修費用はまったく形も用途も構造も違う区役所の耐震改修費用を元に算出しているという、根拠のないものです。ちなみに甲子園球場は築84年、市民球場より33年も古くに完成しながら現在耐震補修を含めた改修工事を行っています。未曾有の不況の中、巨額な建設費用やその後の多大な維持費を市民に課し、環境に大きな負担をかける計画をすすめていいのでしょうか?

新しいかたちの平和施設とは?

市民球場跡地は平和公園と中央公園のリンクエリア、平和施設を置きたいという考え方には同調します。しかし世界の“共通言語”を元に、大人から子どもまで楽しむことができ、未来志向の平和を考える施設が必要なのではないでしょうか。

そのような計画の論議もまだ十分ではありません!!

我々ALL FOR HIROSHIMA (オール・フォー・ヒロシマ) は、広島市の跡地利用計画の「抜本的見直し」を要望します。また市民球場を一部改修し再活用することを前提に、跡地にスポーツ施設「多目的サッカースタジアムと平和文化施設、および市民の憩いの場」の整備を提案しています。

これまで市民球場が積み上げたスポーツと文化の発信拠点を継承し、かつ広島市の街の活性化を図るため、そして民間資本や活力を利用して市民の負担を軽減します。

我々の要望・提案に賛同していただける方は、署名にご協力をお願いいたします。

また他の市民団体や市民がいろいろな素晴らしい案を発表し、声を上げ始めています。様々な意見がある中で、市と市民は本当にあるべき姿をもっと時間をかけて検討する必要があるのではないのでしょうか?

問い合わせ・署名用紙送り先/
〒730-0051 広島市中区大手町1丁目1-30 第3大手町ビル8階

ALL FOR HIROSHIMA 事務局
E-mail kanri@all-for-hiroshima.com

このチラシのプリント&投函サポーターを募集しています。
その詳細および署名用紙ダウンロードなどは下記サイトでお願いたします。
web <http://all-for-hiroshima.com/>

